京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年紀元二千五百七十年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ケ月前金卅錢▲三ケ月前金九十錢▲六ケ月前金一圓八十錢▲郵稅一ケ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料 ▲五號活字十七字詰一行一圓▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所 京城新報社

雄基灣の概況（四）

▲人情　韓人は一般に氣力なく忍耐力乏しく獨立心なければ恒常心なく其主義を二三にして其節操を切賣りすること平然極めて巧妙なり然して其懶惰なること天下其比無かるべく午睡と雜談と喫烟とは彼等が終りの仕事にして明日に要すべき米鹽の計を案ずるは彼等に於て無用の事なり勤勉貯蓄の心なく財を得れば即ち散じ食盡されば漸く其職に從事す彼等若し貨産を貯積せば政府追踏の租稅を賦課し吏員は不當の賦金を命ず若し之れに應せざるものある時は刑罰追害立所に至る此を以て財を造るは禍を造るとなし悠々徒消窮するに至らば餘裕ある同族に赴きて救を求むるの安きに如かずとなす驕政の感化は遂に全國民をして滔々遊惰の民と化せしめしなり斯の如く幾百年の久しき暴歛に苦められし彼等は發奮邁往の精力を消耗し盡し自然に於ける抵抗力を失ひ降雨だも反抗するの氣力なく防雨の用具さへ備へざるに至りしなり斯の如き極度の暴戾に屈伏せられたる彼等は政府に親しむ事なく犬猿的相反目して遂に國家觀念を失ひ公共心缺乏し今や愛國心の如き殆んど見るべからざるに至れり國家的觀念の喪失せるに反し一方家族的團結力の大に發達せるものあり一族は一家の如く榮枯浮沈を共にし一身を起し志を得ば同族相牽ひて其門に押懸け哀を訴ふるに何の憚る處なく寧ろ正當の權利なりと思惟す又彼等は總へて社會的制裁社會的義務を負ふ事なければ尚其家族間に於ては强烈なる制裁と義務を負擔せざるべからず同族の一人に負債あれば同族連帶して之れを償はざるべからざるが如き其一例なりとす而して彼等の神經質なる又戀くべきものあり些少の事も怨恨し憤怒し歡喜熱情す而かも一小打擊に遭遇すれば忽然落膽頓挫して又起つ能はざるを常とす

▲階級制度（イ）族制　韓人には古來兩班、常漢、奴隷の階級制度頗る嚴重にして婚姻を互通せず交際をなさず故に上下親和の機なく國力發展上少からざる不利の要素たるより明治二十七年に至りて此制を廢するに至る然れどもこは單に名目のみにして依然として今尚ほ其制の行はるゝを見る是れ古き習慣性の然らしむる所なりとす

（ロ）兩班は貴族にして政治上社會上至大の勢力を有し代々文武の官職に就くべき當然の資格を有す武官世襲の貴族は朝儀の際西方に列するを以て西班と稱し文官世襲の貴族は東方に列するを以て東班と稱す兩班の名蓋し之れに基因す今は廟堂に政治を論議し一門一家の利を謀り出でては一般人民跪座の尊敬を受け來りし閥族にして今尚其風習を絶たざるなり

（ハ）常漢とは朝鮮普通の人民にして農商工の實業に從事することと世界一般の生民と異ることなし階級制度廢止と同時に官吏となり得るの宣言を受けたりと雖も因襲の久しき俄かに改まらず今尚兩班の壓制に屈徒し實業專務の被治者にして何等の權利を與へざるに有ゆる義務を負はざるべからず此に於てか自暴自棄の國民となり勤勉貯蓄の念なく悠々閑々唯一日の安きを偸むを以て無上の幸福となすに至れり古來の制度の然らしむる所とは云へ國家の中堅たるべき國民が斯の如く無氣力にして國家的觀念なきに至りしは國勢發達を阻むべく憐むべき事なり（此項未完）

朝鮮人の兵役説

寺内總督は朝鮮人として奉公の觀念を養成せしむる爲には内地人と同じく兵役に服せしむるを提從さすとの意見を有し陸軍省にても豫て之れが調査中なりしが朝鮮人は國防兵としては無能力なるも衛戍兵としては優に其の能力ありといふに決し將來朝鮮人のみを以て二個師團の衛戍兵を設くるに大体の意見纏りたる由昨今朝鮮は二個師團常置説の傳へらるゝは多分此の訛傳なるべしといふ

●朝鮮内地人口激增

朝鮮内地にして民團を成さゞる日本人部落にては其子弟を敎育する爲學校組合なるものを組織して之れに充て居れるが近來諸學校組合の申請を爲すもの增加し來り全羅、忠淸最も其多大數を占め居れる由なり是れ併合と共に近來各地の渡鮮者非常に增加し隨つて各地に於ける人口も殆んど從來の倍數に激增し來れるやにて學校組合申請の多きも此の人口增加に起因するものなりと

●朱安停車場の開始

仁川府朱安信號所は愈廿一日より停車場となり乘客の取扱を開始せるが目下其の傍にて建築工事中なる專賣局朱安出張所の廳舍及附屬家工夫合宿所、鹽倉庫粉碎場及び其事務室等の六棟は本月中旬頃迄には竣工の豫定にて器械の基礎工事過半竣成し目下器械組立中故本月下旬には試運轉を爲す由

●木浦港近海の漁況

▲木浦魚市場　へ水揚げせし魚類は末項の通りにて魚價は漸次下落の傾向なり△出漁船　木浦港漁船が漁場へ出漁する時は四日乃至七日を經ざれば歸港せざるを以て市場をも開市せざる事あり故に時としては他より鮮魚を輸入し供給するの狀況あり從つて魚價は割合に高價なり而して當市場への水揚魚類は榮山浦、光州、羅州等各地へ轉送販賣す△漁船數　木浦港漁船の現在數は十八隻にして何れも鯛繩漁業に從事す漁場は珍島を主とし大黑山島近海にして出漁日數十四日間毎一隻の漁獲高は最高百八十圓最低八十圓平均九十圓なりと云ふ△朝鮮人漁船　は釣船六隻にして鯛其他の雜魚を漁獲す漁場は矢張り珍島近海にして毎一隻の漁獲高平均三十圓漁況は日鮮人を通じて昨今より非常に豐漁なり△魚市場水揚高　九月中木浦港魚市場水揚高は鯛千百五十二圓鱸八十圓鯆五十圓鯖九十五圓チヌ廿七圓エイ卅圓鰡五十圓大蝦干鰮百四十圓其他百目合計千八百九十餘圓

▲平壤商況（十月十五日）

平壤市場に於ける昨今の商況を聞くに大豆は弗々出初め昨年に比し上直段なり米も豐作疑ひなしとて一般に景氣持ち直したり生金巾は賣行案外に好景氣にて本年は昨年及び一昨年の不振に懲り引荷手控へにて品薄なりし爲め現品の不足を告げ居る有樣なり晒金巾も生金巾と同じく輸入の少なきと賣行の良好なるとの爲め品拂底を告げ自然相場の昂騰を告ぐるに至れり紡績糸は日々相應の荷動きあるも荷物潤澤に廻り兼

◎新刊紹介

▲朝鮮講演第一輯　出版されたり朝鮮の實相を眞面目に研究すべく多年の研鑽を經たる專門大家の講演を輯めたるものなり今村警視の『韓國戶籍に就て』海津中佐の『朝鮮の社會的組織』小田前學部書記官の『日本が三韓を統治せし年數と其治績』以下十四編を收む前掲の題目を見ても方今の半島に志あるものゝ必讀に値すべきを知らる之大阪朝日京城特派員たりし大村友之丞氏の編纂に係る代價一圓三十錢

俳句

◎漢陽吟社第十回發句集　花偕園琴雲宗匠撰

松茸の土をはなるゝ勢かな　其月
秋雨や雲のちぎれをもるゝ月　梅窓
秋雨やぬれても消ぬ宮のはた　西都
昨日今日問ふ人もなし秋の雨　其月
秋雨や徒然に撫く薩摩琵琶　如春子
松茸の匂ひ小籠にあふれけり　同
松茸に添ふた手紙も匂ひけり　其月
松茸や賣聲高き朝の市　半韓
四ッ手網引手冷たし秋の雨　西都
重た氣に松茸提て戻りけり　都天女
菊咲くや人聲多き垣の外　鈍蝶
一筋に法の道聞く十夜かな　其月
七五三繩てつゝみし郷や秋の雨　西都
菊見から遂に破るゝ禁酒かな　悟竹
孫や子に昔をかたる十夜かな　如眠
十夜から親の敎を聞にけり　朝松
椎茸や木の葉冠ける朝の雨　梅窓
椎茸や思はぬ處に籠ひとつ　德女
松茸や去年のわれはへのわり處　如春子
松茸や吹く風匂ふ山の家　朝松
秋雨や霧から出たる山の松　梅窓

講談　大岡政談　越後傳吉　第百一回　旭堂南陵講

庄「宜しうございます、承知いたしました、ヱヽそこで旦那、甚だ恐入りますが……　源「フム　庄「宅の女房が姙娠でございまして　源「ウム、それは聴て居る　庄「うれに摘て加へて身体が惡いので、今晩はこの用事が済みましたら直ぐに歸して頂きたうございます　源「ア、宜いとも、その用事さへ終つたら直ぐに歸んねへ、何といつても高歩貸だ、取つたものは此方の帳面にキッチリ附けて置かねばとナ、乃公だつて齧けんことはないけれども、根が破落漢上りだ旨く行ねへ　庄「ヘイこれだけはチャンといたして置きます庄兵衛前ふ向になつて、帳面を書き上げ、算盤を取つてパチ〱彈いてゐる　源「れ柳　柳「ハア　源「何でも宜いから一ぺい拵へてくれ、一はい飲んだ勢ひで一ッ釜田屋の方へ行つて來よう、何うも庄兵衛さんぢやア埒が明ねわ、乃公が行きやア何うにか埒が明くだらう　柳「サア行つてれ出で、何もないが　源「こりやア豪氣だ、酒の肴にはこのわたは持つて來いだ、熊の源盆座り込んで一ぱい傾けてゐる、女房は側で其邊の取片附をしながら　柳「ねわれ前さん　源「何だわ　柳「濟まないが、今晩湯にやつて貰ふよ　源「湯に行くたツて乃公が出るし庄兵衛さんは歸るツてぢやアねわか、乃公が歸つてからにしろよ　柳「さう……けれど、餘り遅くなると湯が汚なくなるぢやアないか　源「餘り汚なくなるつて、小言いふ面ぢやアないぢやアねわか、そんな面ア温かい湯の中に入り込んだら、それで宜いんだ　柳「た前はんのやうにさう云たものぢやアないよ妾だつて同じ湯錢を出すんだから綺麗な湯に入りたいよ　源「恐悶々々いふなッ此方やア用があるんだドン〱ドン〱〇「今晩は、今晩は……　庄「何誰でございます　芳「芳でございます　源「庄兵衛さん、持て來たんだ、明けてやんなさい　庄「ヘイ、ガラ〱、ガラッ、芳「今晩は　源「ヨウ、此方へれ上り　芳「有難うございます、早速ですが元利ともで十六兩三分　源「ヱヽ　芳「アヽ此所へ置いときますから　源「芳さん、到頭何だね、悉皆ど高歩の方の金は足洗ひをしたナ　芳「へヽ何うも先生の前ですが、こんな金を借てちやアうだつが上りません、御承知の通り叔父が來て、何時までもそんな金子を借りてちやアいけないといつて、此度資本を出してくれましたから、これから一生懸命に稼がうと思つて居ります　源「乃公だつて何だよ芳さん、こんな金子を借て貰つて嬉しいとも思はねわよ矢ッ張り元利とも拂つて貰つてれ前さんの身體が首尾能く行くことを願ふよ　芳「併し先生、また人間も成わがおりますから、また御無理を願ひます　源「そら宜ともれ前などは乃公の方で華主として好い華主だ　芳「宜しうございますか、何うか證文を戴きたうございます　源「兔貸しの方ぢやア證文を渡さないから、判だけ抜くことにしやう　芳「さうですか證文函の中から取出した一枚の證文當人と請人との判を破つて取てしまふ　芳「宜しうございます左樣なら御免を……プイと、戸外に出ました　源「ナアれ柳、矢ッ張り何だね、親は泣寄りだ彼奴の叔父が持て居るから到頭元利揃へて持て來た、この金子は儲かつたせ　柳「本當だね……、酒は飲んで居るし超つて用箪笥の錠前を開けて中へ仕舞ふのは面倒くさいから、源盆先生證文でグル〱と十六兩三分の金圓、捲てしまふさ、餘の缺硯の抽斗へポンと放り込んだ、一ぱい飲んだ源盆　源「アヽ好い心持だ、ド、これから行つて來やうか　柳「アヽ、行つてれ出でよ　源「庄兵衛さん、勘定が出來たら構はねゑかられ歸りよ……た柳汝家を空けちやいけねわせ、全體汝は人間が横着だからいけねわ、泥棒は始終眼を着けて居るせ昨日まで淺草破落漢であつた勝山の熊が、今日ぢやア少しの金子でも溜めて居るから、盜人の方ぢやア始終眼を着けて居る熊が泥棒に遭つたといつちやアれ役人の方へ屆けるのも體裁が惡いから　柳「宜いよ……一盃機嫌で源盆は金の取立に出て行て了つた





京城新報

朝鮮町夜間の開店

物質的文明の奬勵

併合の結果、半島は帝國の一部として世界の一部と成つた、即ち文明國として文明世界に伍することゝなつた、然る上は過去は措き、現在は問はずとするも將來は半島の地に文明的社會が形成されねばならぬ、其の之れを濟すには舊來の惡習慣を打破するを要する、由來半島に於ける惡習慣として數ふべきものは頗ぶる多いのであるが、就中社會的に最も甚しき**非文明的**なる**惡習慣**は夜間に於ける時間の勞費だ、余輩は京城の**朝鮮町**に於ける商店、特に東京の銀座にも比すべき樞要なる街區**鐘路通**りの各商店が、夜間店舗を鎖し營業を休止するが如きは必ずや茲に打破されねばならぬ惡習慣と信ずる。

余輩寡聞にして朝鮮町に於ける店舖が**日沒後**直ちに**閉鎖**さるゝの惡習慣を馴致するに至れる原因の多くを知らぬ、併し聞き得たる處に依れば古來晝間は男子の京城で夜間は女子の京城とせられたやうである、言換ふれば晝の京城は男子が勤勞の舞臺で、夜の京城は女子が散歩の境地とせられたやうである、尤も日沒後は南大門始め各城門が閉鎖されて、城の內外の交通を遮斷さるゝなど、政治上警察上の理由も有つたのであらう、去りながら今は女子の散歩は晝夜自由となり、亦た政治上警察上の理由も無くなつた、殘るは夕ゞ夜間休業の惡習慣のみである。

這は**經濟上**、**社會上**甚だ不利益である、營業者の賣るにも顧客の買ふにも夜の時間を使用せざる不利益は、之れを月に積り、年に積れば實に容易ならざるものがある、是等の空費されたる時間は國運の隆盛と人文の發達とに貢獻され得べき時間だ、尤も文明國の都市に於ける所謂御問屋の如き大商店は、營業所と營業者の住宅とを別個に構へたる者もある、然れども我が鐘路通りの商賈がこれと同樣の域に達せんは前途尙迥かだ、今は**銀座**の夫の如く、元居留地**本町**の夫れの如く夜間開店を可とする、全體今時**物質的文明の表現**たる**都市は燈火**の數を以て殷賑の度が知らるゝといふほどなるに、**朝鮮町**の夜は**眞闇**だ、陰氣だ、文明の都市と相距る遠しといふべしだ、然るに茲に滑稽に感ずるは斯る陰氣なる闇の街路をば**文明**の**交通機關**たる電車が駛走することだ、此の文明的交通機關が乘客さては極めて少きに闇の街路をば駛せ通ふなどは滑稽とよりは寧ろ凄しき光景である。

方今半島民の**啓發上**最も必要なるは彼等をして**物質的文明**に**接觸**せしむるに在るは云ふ迄も無い、而かも其の**捷徑**は商店の裝飾を美麗にし、夜は店頭に燈火を點じ街燈の數を增して街區を賑はし、晝夜の論なく溫突より賑かなる華美なる街頭に彼等を招き寄せ、物質的文明の模型に接せしむるを以て上乘の方法とする、因て願くば先づ樞區たる鐘路より之れを始めんは如何、無論男子は時間の空費を免れ婦人は又警察の保護に依て些の危險無く散歩を爲し得るのみか美麗に飾りつけられたる店頭に立ちて眼を樂しましむることも出來る、彼の**パコダ公園**なども**燈火**を點ずる等相當の設備を爲さば、或は日比谷公園にも增して多くの人を招くであらう、トハ云へ數百年來の因襲を一時に打破せんは決して容易の業に非らざれども、文明國の一部たる半島の其の首都たる**總督府所在地**を、文明世界の何處にも類例無き闇の京城として永く留め置くは帝國の耻辱である、乍併此の問題は政府の手を以て解決するを便宜と爲さぬ、爲に**朝鮮人商業會議所**と**內地人商業會議所**との在る有り、共に協同研究し**瓦斯電氣會社**の如きも夜中空車を駛するの不利益なるを覺れる筈なれば亦之れに協力して明るき夜の京城を造り出すことに努むべきである。

東京電報

▲總督參內の盛儀 明二十日寺內總督參內の際には畏き邊りよりの御思召にて侍從を差遣遊ばさるべく尙特に儀仗兵を附せられ宮中差廻しの馬車にて參內すべし

▲瓦斯創立總會 今十九日韓國瓦斯電氣株式會社創立總會を開き役員の選擧及報酬定款變更を決議す向は重役は左の如く當選したり（同上）

社長牟田口元學、取締役佐藤、平山、井上、吉本、大池（忠助）迫間（房太郎）小泉、監査役賀田、鹿島、伊藤、五島、

▲工場法案の發表 豫て立案中なりし工場法案は十八日之れを完成したるを以て公表せり（同上）

▲海底電信の買收 對馬釜山間の海底電信は多年大北電信會社と交渉中なりしが今回我が政府と電信會社との交涉纏まり近く遞信省に於て買收する事に決せり（同上）

雜報

王室費と舊王族

今回侯爵に榮叙されたる李載完、李載覺、朴泳孝等の諸氏は從來李家の懿親として舊韓皇の皇室費中より一定の年額を給せられ居りしが以上諸氏に對する今後の待遇如何と云ふに其身分に變更を生じたる今日其待遇は當然廢止さるべき譯なり則ち血緣上より見れば李家の緣族たるに相違なきも一方之が爲めには最上の榮爵を賜はり同時に多額の恩賜金をも下賜相成りたるを以て是に因りて家門の名譽を保持するに足るべく且つ王家は畏くも準皇族にして貴族は則ち臣下に屬する身分なれば準皇族たる王家の費用を割いて之に與ゆるが如き二重の待遇は萬有り得べからずと當局者は語れり

李王家歲計剰餘金

李王家の將來は頗る多望多福にして吾が皇室の御優遇は殆んど其限りを極め殊に其費用に到りても從來と何等變更の事なく依然百五十萬圓の巨額を支出する事となれり然るに一方其經費の點より見れば各種の機關廢止さるべきと又從來其緣族に下給せし十數萬圓の費途は全然不要に歸したるを以て勢ひ多額の剰餘を生じ且つ剰餘を生ぜずとするも豐裕なる御生活を保持し得べき議なり而して若し假りに剰餘等ある場合に於ては可成之を產業敎育慈善等の事業に投じて聖上陛下の斯民を綏撫し玉ふ叡旨に副ひ奉らん筈なりと隨つて其歲計に無要の剰金を生ずるが如き事なかるべしと云へり

旅團幹部の演習

既報の如く步兵第三旅團にては二十日より平壤龍山間に於て旅團幹部演習を施行の筈なるが爲めに演習統監中村少將、平野副官、大島大佐、藤纒騎兵聯隊長等は二十日某地に向け出發すべし

官吏小包郵便課稅

從來統監府所屬官署官吏の輸入する小包郵便物及び其他の荷物は關稅を課せざりしが爲めに不正手段の往々行はるゝことあり屢々物議を醸したりしが十月一日よりは悉く課税することに改正されたるを以て茲に從來の惡弊を一掃するに至れり

日本人會の解散

由來民團なき地方に於ては日本人會を組織し諸般の組合を成立し夫れ〳〵相團結し居りたるが今回の併合に際し且つ總督の施政方針として日本人と朝鮮人とを區別するは甚だ面白からぬ現象なるにより各地の民團は勿論日本人の組合等も一切打破解散すべしとの議起り目下當局間に於て頻りに研究中なるが民團が遠からず廢せらるべきことは人の認むる處なるも地方日本人組合をも解散せしめて朝鮮人と混同し之れに一般施政を爲し得るや否やは講究を要すべき問題也と當局は語れり

貴婦人の觀光團

來る二十五日出發の豫定なる貴族觀光團中の重なる貴婦人は

李熹公殿下夫人、同世嗣李俊鎔夫人
伯爵李址鎔夫人、伯爵李完用夫人
子爵趙重應母堂、子爵尹德榮夫人

此の外李㻑殿下夫人侯爵尹澤榮夫人等も參加せらるゝや否は未定なりと

●外國貿易上半月報

度支部調査に係る朝鮮對諸外國並に內地間貿易十月上半月報左の如し

區別		本月上半月分（圓）	一月以降累計（圓）
外國貿易	輸出品價	一四九、七〇四	三、五四六、二〇四
	輸入品價	四二四、九一四	九、二四五、三九四
	計	五七四、六一八	一二、七九一、六三八
輸入超過		……	五、六九九、一五〇
朝鮮內地貿易	移出品價	七七一、七二五	九、八四五、六四七
	移入品價	一、三一二、四七三	一八、一七〇、八三七
	計	二、〇八四、一九八	二八、〇一六、四八四
移入超過		……	八、三二五、一九〇
貿易額總計		二、六五八、八一六	四〇、八〇八、一二二
前年同期に比し增減		九六、五九二增	一、七四〇、六五〇增

本月上半月外國貿易

港別	輸出（圓）	輸入（圓）
仁川	二八、六〇九	二八、六四三
釜山	九、七八一	六四八
元山	八、八二七	七、〇四一
鎭南浦	一八、三一七	一三、六六四
京城	……	九五
群山	三一	四五五
木浦	二、八四六	……
淸津	……	一、四一六
城津	三五、九三五	一六五
新義州	二八、九二三	二、一八三
平壤	一六、四三五	五三、六〇五
馬山	……	……
計	一四九、七〇四	四二四、九一四

內地朝鮮間貿易

港別	移出（圓）	移入（圓）
仁川	五三、三九七	三〇一、一一六
釜山	四五〇、四五一	三五四、八六八
元山	一三、六三三	一四九、三五六
鎭南浦	七九、七五七	一八、一五八
京城	一一、〇三九	三二六、三三九
群山	八八、四六五	五六、四〇八
木浦	二八、七七一	四一、〇九二
淸津	二、三三三	三三、〇七〇
城津	五、八六〇	八、一四八
新義州	……	六〇、〇四八
平壤	一八、九四八	三二、六三〇
馬山	一九、〇八二	……
計	七七一、七二五	一、三一二、四七三

備考 一月より八月迄の日本韓國間貿易額は內地朝鮮間貿易の累計額に加算せしに依り外國貿易の累計額に包含せず

●併合後の暴徒情況

併合後各地暴徒の情況を聞くに絕對の靜穩にして皆無といふも可なり現に嘗ては巨魁と呼ばれ相當勢力を有せしものも吾が守備隊の警戒嚴重なると又一は所屬部黨の續々逮捕さるゝとにより遂に出沒の自由を失し搗てゝ加へて從來なれば地方良民の彼等に驥はるゝあるも他日の難を虞れて密告する無く固く之を秘せしを常とせしに近來は吾が官憲の威力に信賴して一々之を申告し來る爲め彼暴徒も其行衛を晦ますに由なく隨つて曩日の如き橫行を逞ふする能はざるに到りたりと

●報償金處分に就て

紛擾に紛擾を重ねつゝある國債報償金の處分に關しては既に募集金は敎育基金に充つべしとて曩に敎育基金管理會なるものを組織したる所地方民中には日韓併合の結果日本に對する國債の消滅したる以上は支出者に返付するが當然なりと主張する者多數ありて幹部連は殆んど持て餘し種々協議したる結果各道より代表者一名宛を入京せしめて前後の處置をなすことに決し既に各地方へ通知狀を發したりと云ふ

●徵兵合格者に講話

當地在住商工業者の子弟にして本年徵兵檢査に合格したる者に對し來る二十三日午後八時より當地日本人商業會議所樓上に於て京城守備隊池田中尉より軍人に關する心得等講話ある筈に付き合格者は二十二日迄に壽町一丁目商業會議所內へ申出でらるべしと

●山縣夫人兩宮伺候

山縣政務總監夫人は十九日午前十時三十分藤波通譯官と共に馬車を驅りて昌德宮に伺候し李王及妃兩殿下に對面渡來の挨拶を述べ夫より午餐の饗應を享け更に德壽宮に參り李太王殿下嚴妃に對面等しく挨拶を述べ午後歸邸せり

●敎育訓示の發布期

今後の敎育方針に關する訓示が不日發布さるべきこと既記の如くなるが其內容は非常に細密なるものにして殆んど一小冊子を成すべきにより其飜譯にも多少の時日を要するを以て多分廿三日頃に發布さるべしと

●朝鮮と外國郵便物

朝鮮內に於ける外國郵便、爲替及び外國電信に關する事項は總べて遞信省告示の規定に準據する旨十九日府令第二十號を以て公布され即日施行

第一艦隊の入港

上村司令官の率ゆる第一艦隊薩摩、岩見、三笠、肥前、周防、相模六艦は十八日午後四時三十分仁川に入港投錨したり十九日各乘組員等は仁川上陸し市內各所を巡覽せり尙ほ各艦隊は四日間碇泊し二十二日佐世保に向け出發すべし

九月の各地商況（上）

（韓國銀行の調査）

▲仁川 走新大豆小麥等少量の荷動ありしも時節柄端境に際し格別の事なし併し輸入は織物他雜貨等時節柄稍や景氣附たるが如く追々相當の活氣を生ずべし▲釜山 收穫季に入りし爲め米豆共前月に比すれば集散一段の繁忙を來したるが內地水害に由因する米價の昂騰に伴ひ鮮米の六分通りは內地に移出されたり輸入は其重要品たる綿糸布、砂糖、麥粉、石油を初め內外產共頃に增加を示し八月に比すれば約倍額に上れり尙は是等輸入品中釜山經由各地に移入されたる物額る多量なりしが如し▲元山 穀類、明太魚、牛皮等は價格漸騰の趨勢なれども品薄にて出廻り充分ならず輸入は綿布綿等賣行良好なるも何れも產地高値を氣遣ひ注文手控の爲め盛況を見ず▲鎭南浦 季期柄弗々新米の出廻あり殊に中頃よりは一段の盛況を見るに至りしが內地高値の爲め久々振りの活氣を現し輸入亦た是に伴ひ頗る振はんとす▲平壤 牛皮、小麥の他月末に至り新大豆の賣行盛にて尙は新收穫の多に伴ひ輸入の盛況想像に餘りあり▲木浦 米穀、牛皮、海草等共相當賣行あれども品潤澤ならず金巾類は時盆節に會し賣行良好和金巾も前月に比し約四倍石油も約倍額に上り明太魚亦た三割の增加なりしも輸入は此景氣に伴はす

韓銀の營業成績

韓國銀行創立の日尙は淺きに拘らず營業成績日に良好となり兌換券發行高の如き千七百四十萬圓の增加を見るに至り此の勢を以てせば今年末までには優に二千萬圓を算すべく今最近の營業狀況を見るに預金額五百四十餘萬圓貸出に於て四百六十三萬圓を示せり其の內譯左の如し

▲預金の部（九月末日現在）

公金	一、二七五、七七二、〇〇〇
定期	七三〇、六八九、〇〇〇
當座	一、八二九、四三三、〇〇〇
特別當座	一、三二九、一三六、〇〇〇
其他の預金	五一六、〇六八、〇〇〇
計	五、四八一、二七八、〇〇〇

▲貸出の部（同上）

貸付金	一、九三三、七三四、〇〇〇
當座貸越	三六七、〇〇八、〇〇〇
割引手形	二、二〇〇、六七三、〇〇〇
前爲替	一三六、九五五、〇〇〇
計	四、六三八、三七〇、〇〇〇

石油槽の設置計劃

米國スタンダード石油會社にては今般鎭南浦へ石油槽の設置を計劃し目下其筋へ請願中なるが不日許可さるべしと

上村中將の入京

仁川に入港せし第一艦隊司令長官上村中將は十九日午後一時四十四分南大門着列車にて入京巴城館投宿尙將校三十五名下士以下二百十二名も來京せり

●松永師團長の歸任

伊藤軍醫部長石母田主計吉田參謀太田中尉等を隨へて北鮮地方巡視の爲めに出張中なりし第二師團長松永中將は愈廿日夜歸任すべしといふ尙は師團長は歸任後直ちに旅團幹部演習實視の爲め演習地に出張すべしと

●宇佐川總裁の出迎

宇佐川東拓總裁は二十日入京すべき筈なるが農商務省の一行出迎の爲め水原まで出張し一行と共に勸業模範場其の他を視察の上同午後七時歸京すべし

●石塚取調局長出發

石塚取調局長官は鹽川事務官、屬一名を隨へ十九日午前九時十分南大門發列車にて京義沿線視察の途に上れり

●京城民團民會開催

京城居留民會は來る廿一日開會し繼續問題に付きて討議すべしと云ふ

●李容植子の墓參

元學部大臣李容植子は十九日午前十時半纛島遞潤なる祖先の墓參をなし夫れより纖湖工學會を參觀し午後四時頃歸邸したりと

●明石總長の歸任

明石總務長は寺內總督の東上を見送りて釜山へ赴きたるが十九日夜歸京せられたり

●白國總領事任命

京城駐在白耳義領事ジープリボジア氏は本月六日附を以て同國總領事に任命せられたり

●赤十字社副總長

宇佐美內務部長官は今回日本赤十字社總裁宮殿下より朝鮮本部副總長を囑託せられたりと

●大橋大尉の歸京

寺內總督に隨行して下の關まで出張したる京城第一憲兵分隊長大橋大尉は十九日夜歸京す

公人私人

▲駒田小次郎（代議士） 十八日大邱より入京し巴城館に投宿す
▲長谷川義雄（鎭南浦新報社長） 十八日入京し山本旅館へ投宿す
▲中川元太郎（砲兵中佐） 同日安東縣より入京天眞樓へ投宿す

▲京城手形交換高▼

十月	金高	枚數
十九日	二五二、八八五、四一	六六七

▲仁川米豆取引所▼

▲前場（十九日） 十二月一節九月二十錢二十五錢三錢五錢四錢五錢四錢五錢六錢六錢七錢五錢六錢八錢九錢八錢四錢二十錢十八錢二十一錢二十錢十九錢八錢九錢▲二節十八錢六錢五錢四錢三錢十錢九錢一錢二錢一錢九錢十錢一錢二錢一錢三錢四錢三錢四錢三錢四錢三錢四錢五錢▲三節十六錢五錢六錢五錢三錢四錢五錢六錢▲出來高一萬一千九百石

▲後場（同上） 十一月一節九圓二十三錢▲二節十二錢▲出來高二百石▲十二月一節九圓三十錢五錢三十錢二十九錢七錢八錢九錢八錢七錢五錢四錢五錢三錢二十錢十九錢十八錢▲二節十八錢二十錢十八錢十九錢十八錢七錢六錢▲二節十四錢三錢四錢五錢七錢六錢六錢五錢▲二節十五錢六錢七錢八錢七錢六錢▲出來高七千八百五十石

▲大阪期米電報▼

▲前場（十九日） 十月限寄十五圓三十一錢止六錢▲十一月限寄二十八錢止十五錢▲十二月限寄三十七錢止二十一錢

▲後場（同上） 十月限寄十五圓六錢▲十一月寄二十錢▲十二月寄二十四錢

▲仁川港の出入船舶▼

▲神代丸 二十日大坂より入港
▲群山丸 同 大坂より入港
▲昌朝丸 同 大坂より入港
▲津洲丸 二十日正午鎭南浦を經て入港橫濱へ向け出港

▲海外漫錄▼

來る廿日東拓招待の鶴志觀農團がヤツて來る、當地日鮮人の有志者等は豫て本紙の提議した通り廿一日を以て同團の歡迎會を開くのだ▲序に言ふが統監府設置以來內地から來た觀光團は多いものだ、併しドウカ各方面が總出で盛會にシタイものだ▲ツチかと云へば道者的だ、今度の鶴農團は粒が違ふ、サレば其心得で彼等を遇すべしだ▲會て江藤某を使つて荒島の森林を手に入れんとした虛業屋の酒井靜雄が今度の朝鮮煙草會社へ關係をして居る、之れで愈煙草會社の筋の惡い事が判つた▲半島を舞臺に種々の會社が起るのは結構な事だ、綿花栽培會社、製麻會社等共に歡迎すべきものだトコロで昨日の東電によると已に死んだと思つた加藤增雄が大坂の土居と一ショになり半島產業の開發を目的とし大日本勸業株式會社なる者を起すそうだ、定めし之には例の野津鎭武も仲間ダロウ▲企業宜しい、會社製造宜しい併し關係人物は精撰せんけりやならん前者の覆轍は後事を恐れさすからね▲先頃フランスの或裁判所へ一貴婦人が山羊を被告にして訴出た、貴婦人は山羊の爲に四十磅の紙幣を喰はれたのであつた、山羊の辯護人曰く被告が紙幣に限らず何んでも紙を喰ふのは自然の命に因るのだ、自然の子が自然の命に服する當然の事だと、裁判官は辯護人の主張を納れて被告を放還した、何だかエソプ物語にでもアリソウナ話だ▲二三日前當地本願寺の僧某新聞配者連に晩餐を供した、其趣旨に曰く將來の懇親を願ふ爲めと、ヤレヤレ恐いことだ

▲仁川商況（十月十九日）

▲玄米 本日入津陸揚したるは海州物百四五十俵にて相場は前日よりの腰强を續け裸かの十一圓より十一圓二十錢見當なるが午前中には手合出來ざりき

▲大豆 入津したるは長淵通津白川を產地取雜せ八九十俵の入津にて相場は白川十二俵七圓十二錢長淵十一俵七圓二十錢通津五十二俵七圓にて手合せ出來氣配は品薄の爲め益〻腰强の姿なり

▲新白米 海州物五六十俵の入津にて相場は十一圓七十五錢と十一圓四十錢期なるも品薄の爲め强氣なり

▲新赤小豆 長端水原合せて二三十俵の入津にて其內六俵七圓二十錢にて手合せ出來たり其餘は午前中には手合せなるべし

▲小麥 白川物五十俵內外の入津にて相場は六圓にて手合せ出來たり

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客 十八日の分如左
乘車賃金 一二〇七、七四
▲南大門荷物扱高 十八日の分如左
發送 六〇噸 到着 三〇五噸
發送賃金 七九三、七六
▲龍山驛の乘降客 十八日の分如左
乘車客 二一六 下車客 二〇九
乘車賃金 一二八、三八
▲龍山驛荷物扱高
發送 五三噸 到着
發送賃金 一八二、四〇

▲仁川商況(十月十九日)

▲玄米 本日入津陸揚したるは海州物百四五十俵にて相場は前日よりの景氣を繼け課かの十一圓より十一圓二十錢見當にて午前中には手合出來ざりき

▲大豆 入津したるは長淵通津白川を產地取雜ぜ八九十俵の入津にて相場は白川十二俵七圓十二錢長淵十七俵七圓十錢通津五十二俵七圓にて手合せ出來銀配は品薄の爲め幾分強氣の姿なり

▲新白米 海州物五六十俵の入津にて相場は十一圓七十五錢と十一圓四十錢にて手合せ出來見當なるべし

▲新赤小豆 長湍水原合せて二三十俵の入津にて品薄の爲め強氣なるべし

▲小麥 白川物五十俵內外の入津にて其內六俵七圓二十錢にて手合せ出來たり其餘は午前中には手合せ

相場は六圓にて手合せ出來たり

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客 十八日の分如左 乘車客 一二〇七 下車客 六八〇

乘車賃金 一二〇七、七四

▲南大門荷物扱高 十八日の分如左 發送 六〇噸 到着 三〇五噸

▲龍山驛の乘降客 十八日の 乘車客 二一六 下車客 二〇九 乘車賃金 二八一、三八

▲龍山驛荷物扱高 十八日の 發送 五三噸 到着 四一噸 發送賃金 一八二、四〇

發賃金 七九三、七六



毒婦奥村さめ

▽大田では枕探し

釜山の土を後足に蹴飛ばして大邱に上陸したる伊三郎さめの兩人は同地に於て男は旅館の板場にれさめは小料理店の酌婦と離れ〱に住込むことゝなりし處伊三郎は一生俺を見棄てぬと云ふ證據を示せと迫りしにれさめは早速承知して左の腕に「伊三郎」の三字を入墨して安心させ稼ぎ居ること四ケ月にして早くも抱へ主に對し借金百餘圓を作りたるよりモウ此邊が見切り時と夜る夜伊三郎と手を取りて釜口に逃走せしも此所にては露見を恐れて酌婦稼業はせず菓子屋風の曖昧屋を開業中伊三郎には秘密にて稼ぎ貯めたる四十餘圓を懷中し伊三郎を置き去りて鄕里小倉に歸りたるが毒婦たるさめの十七歲の嬶なりき夫れより小倉市の遊廓某樓に住み込み或る請負師に落籍され渡鮮せしも身の不檢束から更に酌婦稼業を爲すに至り水原木浦群山の各料理店を荒し回りたるは既報の通りなるが中にも馬山浦吉野屋に於ける行爲の如き僅に被害者の好意に依りて事なきを得たる程次に一昨年十一月太田の今福樓より前借金百八十圓にて抱へられ敷島と名乘りて稼ぎ中大切なる客の一人陸軍々醫某の懷中せる百二十圓の內二十圓を引き抜きし事あり後に至りて露現せしも被害者が其の體面上默して止みたるに依りて事なきを得たりされど薄々人の口にも噂さるゝより同所を足拔きせんとせしも取り押へられ鳥致院ノ某小料理店に住み替へ昨年七月當地中の新地山海樓に鞍替へし此所にても山本佐吉なるものと共謀し同月十二日の夜入浴と稱して立ち出で直ちに太平町〇万に至り太田にて知り合の酌婦堀田きく(三十)を欺き四五日間寄食の承諾を得其の中山本を呼び寄せ相談の上鄕里より送金し來る迄待て來れと強制的に山海樓に承諾せしめたるなり(つゞく)

酌婦も女で御座候

▽孕もすれば子も產み升

酌婦だと申しましても根が女の事なればツイ其の時の機會で妊娠も致さうし又月が滿ちては子を產み落しも致さう萬一夫れが孕んだ切り子を產ますに腹が萎んだら夫れこそ大した事件ながら芽出度孕んで芽出度產んだ實がある親切な女さ云ふは西小門通り小料理店はみよしの抱へ酌婦反魂丹で

產み落したは玉の如な女の子

有名な越中富山の產高木つる(廿)と申す高標のピジンなり時は十月十六日曉の鐘ゴーンジヤン〱と鳴り響ける午前は六時頃姙娠九ケ月にして玉の如なコンニヤク樓主も產婦も芽出度いとは思へども芽出度いとは云へぬ芽出度さ元來同家の客筋は鮮人三分の清人二分殘り五分が日本人と云ふ割合なれば生れた子も何所へ引き渡すと云ふ目的もなけれど無理に此の子に似たと云へば云はるゝ程似た如に思はるゝのは度支部主事の國村と云ふに七部朝鮮人崔某に三分首から下は其の餘の客の支那人朝鮮人日本人の皆に似て居るさと云ふ始末なれど兎に角七分似て居るを賴みに國村君に押し付けるのなるべしと不親切な情夫連が目下盛んに噂し居れり

屠豚業者取締

在京城清國人の間には自宅にて屠豚を業とする者あり衛生上頗る有害なれば今回治外法權撤去と同時に我警察にては彼等に對する取締を嚴にすることゝし西部署にては昨日左記數名の清國人を召喚して今後屠豚は凡て屠殺場に就てなす可き旨命じたるに彼等は他の屠場にて屠殺することを肯ぜず結局同國人協同の屠場を新設する迄業を廢止することを決議し西部警察署に此旨を誓約して退出したり住所姓名左の如し

龍山坊阿峴亭千里洞(欒對基)龍山坊青坡二契(姜嵩知)西大門外鐵道管理局官舍上(任太法)盤石坊中洞(許洪青)盤松坊樂口洞(周之江)

朝鮮全道出火累計

本年一月より六月末迄に於て朝鮮十三道の火災總數は千四百三十六回なり之を道別にするときは京城百六回、京畿道百二十二回、忠南百三十一回、忠北八十九回、全南百三十三回、全北百三十二回、慶南九十二回、慶北百八十回、平南二十八回、平北九十回、咸南三十七回、咸北二十回、黃海道九十五回、江原道百五十一回にして重なる原因は溫突の焚火にて四十二件、竈の火二百五十件、放火百六十二件、煙草の吸殼五十一件、弄火五十五件、ランプ及び燈火二十六件等なりと

列車事故二件

十八日釜山發急行列車が午後二時頃倭館若木驛間を運轉中一頭の牛機關車の響に驚き軌上に近寄り列車に轢かれたるより取除けの爲め同所に六分間停車したり▲同日南大門發急行列車が午後一時頃江川伊院間を運轉中清國人男小兒右足を轢き切られたるも生命には別條なし

仁川水道鐵管破裂

十九日午前十時半頃仁川海岸町通り大坂商船會社支店前の水道消火栓俄然破裂し附近一帶水となり傍に積み置きし定期受渡米の中庄野支店より藤本合資會社へ渡すべき玄米約四十俵斗り損害を被りたるが一時は中々の騷なりし

いよ〱菊の季節



朝鮮の秋も桔梗、苅萱、女郎花の賞づる人も無き荒野に寂しくも風勢を添ゆるがあり且つは鈴虫、松虫の野地急ぐ馬子がアラ、ンの唄に和するもあれぞ「東土眞の讃無し」と曰ふを以て見れば此の地原來秋の心に缺くるところ有りと思はれたり況して陶淵明が餅を誦する者はありとも其の情節に備へるはなかりしためか古來菊花を培養するものとては任らざりしが如し然るに數年來內地人の移住者多くなるに伴れて季節來ぬれば其處此處に菊の便のゆかしきをきくに至り今玆は又植物園金華園なんどの營業者の外にも見事なるを造り出せるが多しと聞く何事の因ぞと問ふ勿れ此地も今は我國の一部と成り住民は菊花の御紋章を日月と共に仰ぐべき此の幸多き日の來れると相契るものなからむや去れば本紙は明日の紙上より今を盛りの菊花を寫し培養者の苦心談並に之れを詠せる詩歌を併せ載せて大方の瞻覽に供せんとす這も亦物さびしき秋の日の清らなる慰藉ならずとせんや。

仁川雜事

仁川花町通り道路に荷車通行禁止の制札あるにも關らず一昨日午後一時頃民團塵芥掃除監督人たる花町三丁目七番地近藤熊男は塵埃荷車挽きなる鮮人に差圖して通行せしめんとしたるを折柄巡廻の警官に認められ制止せられたるに警官の立去るを見て再度人夫をして禁止を犯さしめたるを以て告發せらる▲仁川水踰洞製鹽場野見山次男方雇人崔相根(二〇)は一昨日午後七時過ぎ主人の不在を窺へ事務室机上に置きたる十六形銀側懷中時計一個を窃取し何處ともなく逃走せり▲敷島一昨夜の登樓客三十五人にして百十三圓五十錢の散財なり

恐喝取財未遂犯

本年五月下旬河合貞輔多田藤四郎楠本憖四郎北島新三郎の四名共謀して當時河合が京城日報社に在勤中なりしを奇貨とし元司法廳屬山崎喜一の欠點を握り筆誅す可しとて右原稿を多田をして認めしめ恐喝を働き金錢の受授に至らずして本町憲兵分遣所に探知されたる事件は既報の如くなるが再來京城地方裁判所に於て審理中の所昨十九日北島新三郎は懲役一年六箇月に多田河合楠本は各懲役五箇月に處せらる

交通の妨害四件

南大門通り二丁目三十六番戶岐阜縣人紙商松野久一(二七)は十五日自宅前街路に商品を陳列し交通を妨害せしに因り過料一圓▲南大門通り一丁目十三番戶廣島縣人雜貨商池尻林太郎(三)は同上にて過料一圓▲本町七丁目十二番戶長崎縣人古物商陣野吉次郎は同上過料一圓▲南大門通り三丁目八番戶岡山縣人雜貨商建井澄太(三)は同上過料一圓に處せらる

悪化立屋の處刑

大和町一丁目岩本法律速辨社事務員谷川謹次郎內緣の妻澤崎ゆくが他より仕立物の依賴を受け之を入質若しくは賣却し或は反物の販賣を托され賣却したる代金を橫領したる事件は屢々報道せし如くなるが該事件は京城地方裁判所に於て昨十九日懲役三箇月に處せらる

萬千閣で暴れる

大阪府平民當時御成町十一番戶西島勝次郎(三七)は十八日午後十二時頃酩酊して旭町の料理店萬千閣に行き雇人福島ゆき(三五)が元自分の內緣の妻なりしに付連れ歸るとてゆきに面會を申込みしもゆきは之れを拒絕して逃げたるを樓主が隱したるものなると稱し亂暴を働きし爲め南部署に連行され說諭の上放還さる

玉水樓主の處刑

既報曩樓主中の新地玉水樓主渡邊鐵[illegible]の詐欺取財事件は昨十九日京城地方裁判所に於て懲役一箇年に處せらる

鮮人の邸內侵入

南大門外居住伊文成(三一)は十五日午後七時頃明治町二丁目百二十番戶杉山孝平方內庭に濫りに侵入せしに廉に依り笞三十に處せらる

目ご耳 (二十日分)

▲歌舞伎座 藝題は『軍人曾我』にして其の重なる役割は左の如し 陸軍少尉種田秀夫(泉)騎兵曹長種田助夫(河野)ばゝれりね(花浦)御用商人馬島剛三(谷)種田右衞門、大尉旅谷賢(五味)娘れくめ(小神)楠本夫人久子(小西)秀夫妻れ辰(淺夫)少佐楠本武久(青山)車夫坂本金太(一二三)

▲壽座 藝題は「岩見重太郎」全九幕にして重なる配役左の如し 大川八左衞門、岩見重太郎(京之助)穢原平三郎(三津之助)植藤兵衞(桃太郎)丹平(家鶴丸)七人武士(織三郎)同 若之助)兄重次郎、大日五郎(多目若)赤星主膳、大ヒヽ(梅若)團右衞門、平左衞門(大吉)使侍(きぬゑ)成瀨大學、庄兵衞(かをる)七人武士(小調)丹助(音市)神主(時雀)れ辻れ花 昇花 番頭文助、小ヒヽ(自樂)

▲浪花館 若遊三一座の代番組如左 西の旅(若三郎)西行(遊枝)厄拂ひ(若明)月宮殿、滑稽浮連節、手踊(笑三)安產(遊喬)連丁稚、音曲、紙衣紋流し(圓三)喜劇、禁物(座員總出)虹の虫三府音曲各種(若遊三)和洋合湊ヴァイオリン(菊地廣芋)大切早替り所作事電氣應用踊くみ(若遊三)

●五雲會素謠例會 廿三日午前十時より大和町三丁目梅の家に於て第四十五會例會開催番組左の如し 鶴龜(抽籤)熊坂(長氏、霜鳥氏)松風(抽籤)鸚鵡小町(西尾氏、有賀氏)(小杉氏、熊谷氏)柏崎(島氏、水越氏、僧波多江氏)藤戶(境氏、增戶氏)

●觀世會素謠例會 二十日午後正六時より倭城臺京城婦人會々場に於て第十一回例會開催番組左の如し 項羽(三宅氏、ツレ齋藤氏、大槻氏)女郎花(柴田氏、ツレ佐治氏、三好氏)江口(花田氏、ツレ寺川氏、秋場氏)班女(村上夫人、佐々木夫人)自然居士(安住氏、菱谷氏、ワキツレ山口氏)番外蟬丸(當日抽籤役割を定む)附祝言

●取消 拜啓貴紙本月十九日紙上に於て不埒なる金貸業者として御掲載相成候事は何等かの間違にして小生は下水洞十六統一戶李某に對し貸借關係は更に無之候右は全く中傷的揑造說なるを以て全文御取消し被下度此段請求候也 明治四十三年十月十九日 黃金町 中野友次郎 印 京城新報社御中

今日の運勢

十月廿日 舊九月十七日 六白先勝戊午 成 三りんぼ 隆運日なり大凡進んで吉 新事及旅行效無し △一白 △二黑 旅行會談婚談に忌む其他快放の日 △三碧 保健衞生に留意の事 新事婚談共同組合委託相談効無し △四綠 塗塞不通の日 金品授受設計起業開店談判談合婚談貸借に忌む △五黃 利得を逸するか職務上懈怠ある日なり 商談會見協議調停に吉 △六白 證劵帳簿印章の事注意の事 尙盜害紛爭遺失の恐れあり △七赤 競爭訊讞多き日なり取引金品授受證劵の事注意を要す △八白 家族從者に付き煩累あり交際上破れある日なり △九紫 新事旅行婚談貸借保證事を禁ず盜難遺失防ぐべし(三一館判斷)

●天氣豫報(自十九日午後六時至二十日午後六時) 南東風晴

京城控訴院檢事長正四位勳三等世古祐次郎儀豫而病氣ノ處養生不相叶昨日卒去致候間明二十日午前十時官邸出棺京城南山町本願寺ニ於テ假葬儀相營申候此段謹告仕候

明治四十三年十月十九日

男 世古正泰

親戚總代 世古莊次郎 近藤貞助

友人總代 國分三亥 城數馬